

令和4年度 特色ある道徳教育推進校

匝瑳市立須賀小学校

研究主題

「自己の生き方について考えを深め、よりよく生きようとする児童の育成」
～自分を見つめ、主体的に考え、議論する道徳科の授業を通して～

取組1 指導方法の工夫

工夫1 導入の工夫

- ・導入では、実際に自分たちが学級目標を立てた時の思いや願いを想起させることで自分自身の問題として捉えさせ、教材につながるように

工夫2 教材提示の工夫

- ・場面絵をモニター画面に映し、教材文を読むことにより、
・場面絵を前半と後半に分けて読みきかせを行い、場面をしぼって深く考えさせ、多様な意見を引き出す。それぞれの場面での登場人物の気持ちに共感することで自分自身の問題として捉えて向き合い、考え、議論する。

あいうえおのやくそく

- あいての 目を見て
- うなずきながら
- えがおで きこう
- はなしを きいたら

わがやまをのりもちょう。
ほかのまをからたれよう。
これでよいのか かくにんしよう。

取組2 きき合い活動の充実

- ・お互いの意見をしっかりと聞き合う「きき合い活動」の充実を図ることで、相手のことを考え、自分と違う意見でも大切にできるようにする。「きき合い活動」として、「あいうえおの約束」を作成し、学校全体として取り組む。

○K J法を取り入れた「きき合い活動」

- ・提案授業の中心発問では、グループでK J法を取り入れる。活動を通して、多様な感じ方や考え方に接し、多面的・多角的に考える。

映像資料参照

あいうえおのやくそく

- あいての 目を見て
- うなずきながら
- えがおで きこう
- はなしを きいたら

わがやまをのりもちょう。
ほかのまをからたれよう。
これでよいのか かくにんしよう。



主な成果と課題

- 教材提示の工夫により、教材の理解を深めることができた。
- 「きき合い活動」に重点をおいて取り組んできたことによって、児童が自分の考えと友達の考えを比較しながら話をきくことができ、多様な考えに触れ、考えを深めることができた。
- 「きき合い活動」をさらに充実させるためにどのような手立てが有効なのか、ICT機器の活用方法も含めた教材研究が課題。

授業実践事例

<学習指導案>

匠瑛市立須賀小学校 3年1組 道徳科学習指導案

令和4年11月22日(火)

1 主題名

楽しい学級を作ろう

C-(15)よりよい学校生活、集団生活の充実(県の視点「つながる未来」)

2 ねらいと教材

ねらい「教材について考えることを通して、笑顔がいっぱいの学級のよさに気づきみんなで協力し合って楽しい学級をつくろうとする心情を養う。」

教材 「えがおいっぱい」 (出典「はばたこう明日へ」教育出版)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容についての教師の捉え方(指導観)

本時の学習を通して、明るく活気あふれる笑顔いっぱいの学級をみんなで協力し合ってつくろうとする心情を養いたい。導入では、実際に「自分たちが学級目標を立てた時の思いや願い」を想起させ、本時の教材を身近な問題として捉えることができるようにする。前半では、「えがおいっぱい」になっていない学級を見て、どうしたらよいか悩むあおいの気持ちに触れ、共感させたい。中心発問では、学級会であおいがどのような思いで、今の学級は「えがおいっぱい」になっていないと思いきって言うことができたのかについてグループで考える。「きき合い活動」を充実させるためにKJ法を用いる。自分の考えを書いた付箋紙をもとに、グループで互いの考えを伝え合う。自分の考えと友だちの考えを比較しながらきき合うことで、多様な感じ方や考え方に接し、互いの考えに共感したり、対話したりしながら、多面的・多角的に考えることができるようにする。

後半では、みんなで話し合っ「えがおいっぱいせんげん」が完成した時のあおいの気持ちに触れ、みんなで協力して話し合うことで、学級が「えがおいっぱい」になり、これから協力していこうと決意したことに共感できるようにする。終末では、本時を振り返り、自分の学級を「えがおいっぱいの学級」にするにはどうすればよいか考え、自分自身の問題として深く考えることができるようにしていきたい。

(2) 児童生徒のこれまでの学習状況や実態と教師の願い(児童観・児童の実態)

明るく元気な児童が多い。休み時間には、外で元気に鬼ごっこやドッジボールを男女で楽しく行っている。しかし、その遊びの中でのけんかやトラブルも多い。ルールを守らない友達に強く言ったり、自分の意見を押し通そうとしたりして自分たちだけでは、なかなか解決できずに教師に相談してくることもある。また、掃除や当番活動には意欲的に取り組むことができている。リーダー性のある児童が声をかけ、みんなで協力して行おうとする姿も見られる。事前調査の結果から、「協力」とは、誰かを助けたり、手伝ったりすることであると考える児童が多く、「何かをみんなで行うこと」を協力と考えている児童は少ないことがわかった。そこで、友達との関わりを通して、他者への思いやりや、さらに明るく活気あふれる楽しい学級をみんなで協力し合っつくろうとする心情を養いたいと考えた。

(3) 使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法 (教材)

教材文の読み聞かせをする際、場面絵をモニターに映しながら読み聞かせをすることで教材の内容をじっくりと味わわせ、教材文の理解を深める。展開では、あおいの気持ちについて深く考え、児童から多様な意見を引き出すために、教材文を前半と後半に分けて読みきかせる。

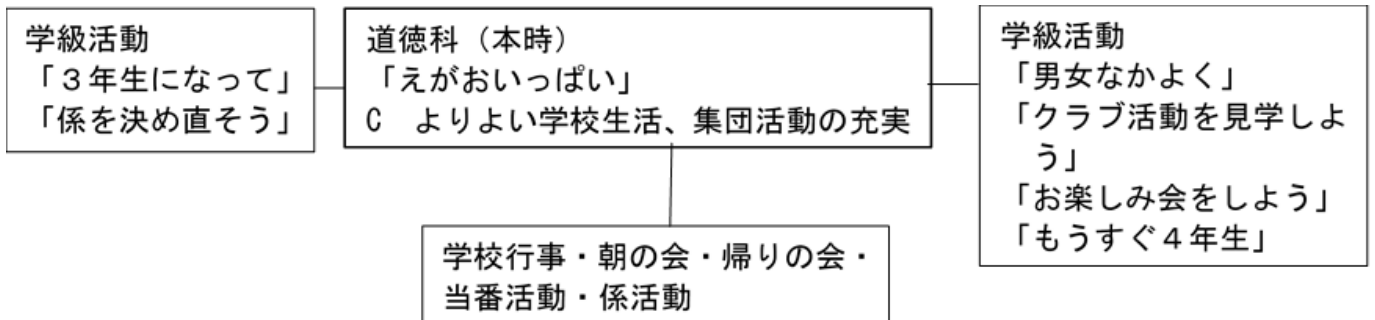
4 展開

過程	学習活動と主たる発問・ 予想される児童の反応	支援及び指導上の留意点 (○評価の視点)
導入 (2)	<p>1 自分たちの学級目標を考えた時の気持ちを振り返る。</p> <p>○どのような学級にしたいかと学級目標を立てましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しいクラスにしたい。 ・仲の良いクラスにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分たちの学級目標はどんなことを思い立てられたのか。」を想起させることで自分自身の問題として捉え、教材につながるようにする。 ・場面絵をモニターに映しながら読みきかせる。
展開 (38)	<p>2 教材「えがおいっぱい」の前半をきき、話し合う。</p> <p>○休み時間にけんかする男の子たちやこそこそおしゃべりする女の子たちを見て、あおいはどんなことを思っていたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どうしてけんかばかりするの。 ・学級目標をみんなで決めたのに、これでは笑顔じゃない。 ・なかよくしてほしいな。 <p>◎あおいはどのような思いで、思いきって言うことができたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もっと楽しいクラスにしたいな。 ・このままじゃいけない。 ・学校の生活がおもしろくなくなっちゃうから、思い切って言おう。 ・えがおいっぱいのクラスにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あおいの学級の目標を確認し、よりよい学級を目指してみんなで協力して作り上げたことを再認識できるようにする。 ・学級のみんながびっくりしたことに触れ、集団に関わるような問題となると切り出しにくいものであることに共感させる。そして、あおいがあえて発言した思いを考えさせる。 ・自分の考えを付箋に書くことで多様な考えを引き出すことができるようにする。 <p>「個別に支援が必要な児童への手立て」 どのようなことが書きたいのか尋ね、どのように書いたらよいか具体的に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4～5名のグループでKJ法を活用し、自分と友達の見解を比較しながら「きき合い活動」を行う。 ○友達の考えにふれ、笑顔いっぱいの学級をみんなで協力し合ってつくろうとする大切さについて、多面的・多角的に考えることができるか。(観察・発表)

映像資料参照

	<p>3 学級全体で考えを共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もっと楽しいクラスにしたいな。 ・このままじゃいけない。 ・思いきって言おう。 ・えがおいっぱいクラスにしたい。 <p>4 教材「えがおいっぱい」の後半をきく。</p> <p>○あおいが思いきって言ったことで、学級みんなはどうしましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなで話し合った。 ・みんな同じ気持ちになった。 ・みんなえがおになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・代表グループの発表をきき合い、さらに多面的・多角的に考えることができるようにする。 ・みんなで協力して話し合うことで学級が「えがおいっぱい」になり、これから協力していこうと決意したことをおさえる。
終末 (5)	<p>5 本時の学習を振り返り、今後の自分の在り方についてワークシートにまとめる。</p> <p>○自分の学級をよりよい学級にするにはどうすればよいでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなで協力して考える。 ・よくないことはきちんと伝える。 	<p>○よりよい学級をみんなで協力し合ってつくることの大切さについて、自分との関わりで考えることができているか。(発表・ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の学習を振り返り、今後学級をよくするために、自分たちができることについて考え、実践に向けての意欲を高める。

5 他の教育活動との関連



<授業の様子>

(1) 板書



(2) 児童生徒の様子

KJ法を取り入れたことによって、全員が参加するきき合いをすることができた。また、多様な感じ方、考え方にふれることができ、自分の考えを深めることができた。